

ちょっと昔の道具たち (洗濯編)

◎川



むかし
昔は
かわ せんたく
どうして川で洗濯していたの？



むかし ももたろう なか かわ せんたく
昔ばなしの「桃太郎」の中のおばあさんは川へ洗濯
かわ みず じょうりゅう かりゅう なが
に……。川の水は上流から下流に流れていて、きれい
し、また、いっぱいあったからです。



いま むかし みず て い かんが
今と昔 水はどうして手に入れたか考えてみよう。

いま すいどう じゃぐち まわ みず ゆ で せいかつ
今は水道の蛇口を回せば水 湯が出る生活です。
むかし ひと なつ あつ とき さむ ふゆ ひ みず かわ いずみ
昔の人は夏の暑い時、寒い冬の日もどんなときにも水を川や泉に
もと い
求めに行かなくてはなりませんでした。
いま せんたく せんたくき むかし ひと せんたく てあら
今の洗濯には洗濯機がありますが、昔の人の洗濯は手洗いです。どん
くろう
なに苦労だったことでしょう。

せんたく どうぐ 洗濯の道具

◎たらい (平安時代～)



おけ つか いえ ちか
たらいや桶が使われるようになってから、家の近く
いどばた せんたく
の井戸端でも洗濯されるようになりました。

◎洗濯板 (明治の初めころ～)



せんたくいた なみがた むすう だん せんたくもの
洗濯板は波型の無数の段がついており、洗濯物は
せんたくいた あら よご お
洗濯板にこすりつけて洗うとよく汚れが落ちます。
せんたくいた めいじ はじ がいこく はい
洗濯板は明治の初めころに外国から入ってきました。

だっすい つ いっそうせんたくき しょうわ ねん しょうわ ねんころ
 ◎脱水ローラー付き一槽洗濯機 (昭和30年～昭和40年頃)



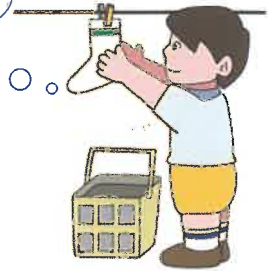
だっすい
脱水ローラー



せんたくき いちど なんまい せんたくもの あら
 洗濯機は一度に何枚もの洗濯物を洗えます。たらい
 せんたくいた くら せんたく らく
 と洗濯板に比べて、洗濯は楽にできるようになりました。
 あら せんたくもの だっすい つか
 た。洗いあがった洗濯物は脱水ローラーを使ってしっ
 しば でき
 かり絞ることが出来るようになりました。

だっすい しば せんたくもの いた かた しば
 脱水ローラーで絞った洗濯物は板のように固く絞れま
 した。

くつした ほ
 靴下をたたいて干すことは
 の
 しわを伸ばすためだね！

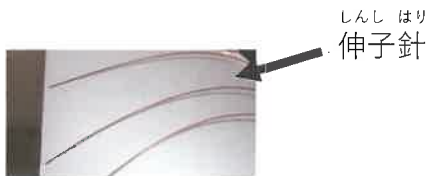


の どうぐ
 しわを伸ばす道具

しんしはり つか あら は えど じだい しょうわ
 ◎伸子針を使った洗い張り (江戸時代～昭和)



きもの ほど あら とき つか めの あら りょうはし
 着物を解いて洗う時に使います。布を洗い、両端を
 は て みじか りょうはし ひろ しんし
 張り手ではさみ、短いほうに両端を広げながら、伸子
 はり さ め つ ほ きれい
 針を刺してのりを塗り付けて干すと、しわがなく綺麗
 かわ かわ めの きもの した なお
 に乾かせます。乾いた布はまた、着物に仕立て直しま
 す。



あら は いた えど じだい しょうわ はじ
 ◎洗い張り板 (江戸時代～昭和の初め)

きもの ほど せんたく は いた は
 着物を解き洗濯して、のりづけをして張り板に張り
 めの の どうぐ かわ いた
 ます。布のしわを伸ばす道具です。乾くと板からはが
 きもの した
 し着物に仕立てます。



きぬた き めいじ しょうわ はじ
◎ 砧と木づち (明治～昭和の初め)



せんたくもの なまかわ じょうたい かわ だい きぬた
洗濯物が生湯きの状態や乾いたとき、台(砧)にの
ぬの の だ
せて布をやわらげたり、しわを伸ばしたり、つやを出
すために木づちでうちました。

ふのり
◎ 布海苔



かいそう げんりょう せんたくのり こうきゅう きもの ぬの つか
海藻を原料とした洗濯糊です。高級な着物の布に使
いまして。水で煮て作ります。この海苔は食品、シャ
ンプー等いろいろ使い道が多いです。

はん つく せんたくのり ひともかまえ のこ はん みず
ご飯から作る洗濯糊 一昔前は残ったご飯を水で

ね のり つく せんたくのり ゆかた
練って糊を作りました。この洗濯糊は浴衣のような
もめん きじ つか
木綿の生地に使いました。



せんたく
洗濯のり、おいしかったのに・
「舌切りすずめ」より

ひ えど じだい めいじ じだい
◎ 火のし (江戸時代～明治時代)



まる ぶぶん すみび い そこ あつ ひ
丸い部分に炭火を入れて、底が熱くなれた火のし
の ぬの
を、しわを伸ばしたい布にあててしわをのばしまし
た。

ひ すみび
火のし、炭火アイロンは
おも
とても重いです!



すみび めいじ じだい
◎ 炭火アイロン (明治時代)



とっしゅをもちあげて胴体のところに炭火をいれて、
そこ あつ いふく の もち
底が熱くなると衣服のしわを伸ばすのに用いました。
くうき ちょうせつ くうき あな けむり だ えんとつ
空気調節する空気穴や煙を出すための煙突がついてい
ます。

や えどじだい しょうわ
◎焼きごて (江戸時代～昭和)



ひばち なか すみび はい なか さき い あつ
火鉢の中の炭火の灰の中にこての先を入れて熱くし
つか とく きもの こま む め ぶふんの の
て使います。特に着物の細かい縫い目の部分を伸ばし
わ つか
たり、割ったりして使います。

でんき たいしよつ ほし
◎電気アイロン (大正の初め～)



でんき そこ あつ つか すみ ひ
電気で底を熱くして使います。炭に火をつけたり、
すみび はこ ねん がいこく
炭火を運ばなくてよくなりました。1910年に外国か
つた ねんころ おんど ちょうせつ
ら伝わりました。また、1920年頃には温度調節がつ
べんり
いて、さらに便利になりました。

みず れい
＜水のリサイクルとしての例＞



かたち ふろ おけ
おもしろい形の風呂桶。
えんとつ
煙突がついていて
てっぽうぶろ えど じだい
鉄砲風呂(江戸時代)
といます。



さき みず い よこ てつ つつ なか
先に水を入れて横の鉄の筒の中に
ひ すみ ゆ わ
火のついた炭をいれて湯を沸かします。



ふろ はい あと
風呂に入った後の
残り湯は、洗濯に
つか
使われたよ！

はっこう ほうじぬきし ぶんかざい
発行 NPO法人歴史文化財ネットワークさんだ

連絡先 三田ふるさと学習館

〒 669-1532 三田市屋敷町7-33

電話 FAX : 079-563-5587

平成30年 1月発行